

- 問1 青森県のりんご栽培において、長期間にわたって鮮度を保ち、収穫時期以外の時期にも安定して出荷できるようにするための工夫として、最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 高知県公立入試 類似)
1. 酸素や二酸化炭素の濃度、温度を調節する「CA貯蔵」という技術を用いて、果実の呼吸を抑えて保存する。
 2. 夏の冷たく湿った風である「やませ」による被害を防ぐため、すべての果樹園を巨大な温室で覆って栽培する。
 3. 収穫時期をずらすために、標高の高い山地から低地まで、あらゆる高度の土地で一斉に同じ品種を栽培する。
 4. 収穫後の傷みを防ぐため、水分をすべて飛ばした乾燥果実（ドライフルーツ）の状態でのみ全国へ出荷する。
- 問2 東北地方の気候と農業に関する説明のうち、太平洋から陸地に向かって吹く北東風の性質と、その地形的な影響をふまえた記述として適切なものはどれですか。 (2026年 岡山県公立入試 類似)
1. 夏に南から吹く湿った風が太平洋側に当たること、温暖な気候を利用した稲の二期作が盛んに行われている。
 2. 冷たく湿った北東風が奥羽山脈に突き当たることで、山脈の東側にあたる太平洋側で低温や曇天が続き、稲作に悪影響を及ぼすことがある。
 3. 冬に太平洋側から吹く冷たい風が山脈にぶつかること、日本海側とは対照的に、太平洋側の平野部に大雪をもたらす。
 4. 湿った北東風が奥羽山脈を越える際に水分を失い、山脈の西側にあたる日本海側で乾燥した高温の風となり、大火災を招く恐れがある。
- 問3 岩手県を代表する伝統的工芸品である「南部鉄器」の特徴や背景について述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 京都から伝わった高度な織物の技術を背景に、華やかな模様の衣服として普及した。
 2. ブナやスギなどの豊富な森林資源を利用し、樹皮を加工して作る木工品である。
 3. 日本海側の気候を生かした漆塗りの技術が特徴で、主に高級な食器として発展した。
 4. 盛岡市や奥州市を中心に生産され、鉄瓶などに代表される頑丈で独特の質感を持つ鋳造品である。
- 問4 仙台駅を起点とした東北地方の移動について、鉄道の整備状況と所要時間の関係を示した記述として正しいものはどれですか。なお、仙台駅から盛岡駅へは約39分、秋田駅へは約139分、気仙沼駅へは約129分かかるものとします。 (2026年 広島県公立入試 類似)
1. 盛岡駅、秋田駅、気仙沼駅のいずれの都市へも、新幹線の整備によって仙台駅から1時間以内で到達できる
 2. 気仙沼駅へは新幹線が整備されているため、秋田駅へ向かうよりも短い時間で移動することが可能である
 3. 秋田新幹線が利用できる秋田駅への移動には、東北新幹線が利用できる盛岡駅へ向かうよりも長い時間を要する
 4. 新幹線を利用しない気仙沼駅への移動時間は、高速化された在来線により、新幹線を利用する盛岡駅よりも短い
- 問5 日本国内における特定の発電方式の地方別割合を見ると、九州地方が約59パーセント、東北地方が約37パーセントを占めており、これら2つの地方で全体の9割以上を占めています。火山地帯を有する特定の地域に集中しているこの発電方式は何ですか。 (2026年 長野県公立入試 類似)
1. 風力発電
 2. 原子力発電
 3. 水力発電
 4. 地熱発電
- 問6 東北地方の北端に位置する県では、ある果実の生産が盛んであり、その収穫量は全国でも圧倒的なシェアを占めています。統計において年間収穫量が40万トンを超え、2位以下の県を大きく引き離しているこの果実はどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. りんご
 2. おうとう
 3. みかん
 4. ぶどう
- 問7 東北新幹線が通過する福島県と岩手県の間に位置する県には、人口が100万人を超える東北地方最大の都市があります。この県名と都市名の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 北海道の札幌市
 2. 福岡県の福岡市
 3. 宮城県仙台市
 4. 広島県の広島市
- 問8 日本の人口構成に関する統計において、1980年と比較した人口比率が約93%まで減少し、65歳以上の人口割合が約40%に達している一方で、15歳から64歳の生産年齢人口の割合が他地域に比べて著しく低くなっている秋田県のような地域で、現在直面している課題として最も適切な説明はどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
1. 若年層の労働力が豊富になることで、製造業を中心とした第2次産業の経済成長が加速すること
 2. 都市部からの人口流入が急激に進むことで、住宅不足や交通渋滞などの都市問題が発生すること
 3. 年少人口が増加することで、義務教育に必要な学校施設の不足が深刻な問題となること
 4. 社会を支える労働力となる生産年齢人口が減少し、社会保障などの負担が相対的に大きくなること
- 問9 東北地方の各県における農業統計に基づき、土地利用や生産状況について説明した次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、宮城県の総面積に対する耕地面積の割合は約17.2%、青森県は約15.5%です。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
1. 岩手県は、広大な土地を活かした畜産業が極めて盛んであり、県全体の農業産出額の7割以上を畜産が占めている。
 2. 青森県は東北地方で最も総面積が大きいので、山地が多いにもかかわらず耕地面積の割合も東北6県で最大である。
 3. 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。
 4. 秋田県と山形県は東北を代表する米どころであり、この2県だけで東北地方全体の米の産出額の半分以上を占めている。
- 問10 1990年代と比較して、現在の東北地方における高速道路整備の状況とその背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
1. 日本海東北自動車道や東北中央自動車道、三陸沿岸道路などの整備が進み、日本海側と太平洋側の各都市を多角的に結ぶネットワークが構築された。
 2. 南北の幹線道路のみを重点的に拡張し、東西方向の移動については既存の一般国道を利用する方針に転換したため、移動時間は変化していない。
 3. 新幹線の利用者を増やす目的で、高速道路の建設を一時中断したため、2020年代になっても1990年代と路線の状況はほとんど変わっていない。
 4. 人口減少に対応するため、1990年代よりも高速道路の総延長を縮小させ、主要都市間のみを限定的に結ぶ構造に簡略化した。
- 問11 津軽塗や天童将棋駒のように、東北地方の各地で古くから伝統的工芸品の生産が発達してきた背景には、この地域の気候条件が大きく関係しています。その理由として最も適切なものはどれですか。 (2024年 青森県公立入試 類似)
1. 一年を通して温暖な気候であり、原材料となる植物の栽培が容易だったから
 2. 夏期に雨が少なく農作業ができなため、代わりの産業として行われたから
 3. 雪が多く冬の間は農作業ができなため、屋内でできる副業として行われたから
 4. 急速な工業化が進み、大規模な工場で製品を大量生産することが可能になったから
- 問12 東北地方の中央を走る奥羽山脈を挟んだ、日本海側の秋田市と太平洋側の宮古市の気候の違いについて説明した文として最も適切なものを1つ選びなさい。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
1. 冬の降水量は季節風の影響を受ける秋田市の方が多く、夏の平均気温はやませの影響を受ける宮古市の方が低い。
 2. 冬の降水量は太平洋側の宮古市の方が多く、夏の平均気温は秋田市の方が低い。
 3. 年間を通じた降水量は宮古市の方が多く、夏の平均気温は秋田市と宮古市でまったく同じである。
 4. 冬の降水量も夏の平均気温も、日本海側に位置する秋田市の方が低い。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 酸素や二酸化炭素の濃度、温度を調節する「CA貯蔵」という技術を用いて、果実の呼吸を抑えて保存する。	青森県では、収穫したりんごを新鮮な状態で保存するために「CA貯蔵（Controlled Atmosphere Storage）」などの高度な貯蔵技術が導入されています。これは、貯蔵庫内の気体成分を調整することでりんごの「呼吸」を抑制し、鮮度の低下を遅らせる仕組みです。これにより、秋に収穫したものを翌年の夏まで計画的に出荷することが可能になり、高い農業産出額を維持する要因の一つとなっています。
問2	答え 2 冷たく湿った北東風が奥羽山脈に突き当たることで、山脈の東側にあたる太平洋側で低温や曇天が続き、稲作に悪影響を及ぼすことがある。	「やませ」は太平洋から東北地方の陸地に向かって吹き込みますが、中央にそびえる奥羽山脈によって遮られるため、特にその東側の地域（太平洋側）に冷涼な気候をもたらします。この風が長く吹き続けると、夏でも防寒着が必要なほどの気温低下を招き、稲の結実を妨げる深刻な冷害に発展します。選択肢にある「山を越えて乾燥した高温の風になる」現象はフェーン現象の説明であり、やませによる冷害とは仕組みが異なります。
問3	答え 4 盛岡市や奥州市を中心に生産され、鉄瓶などに代表される頑丈で独特の質感を持つ鋳造品である。	南部鉄器は岩手県の北上川流域などで得られる砂鉄や岩鉄、粘土などを原料として発展しました。鉄を溶かして型に流し込む「鋳造（ちゅうぞう）」という技法が用いられており、その重厚な風合いと高い耐久性が特徴です。他の選択肢にある漆器、織物、木工品とは、素材や製造工程において明確に区別されます。
問4	答え 3 秋田新幹線が利用できる秋田駅への移動には、東北新幹線が利用できる盛岡駅へ向かうよりも長い時間を要する	東北地方では、東北新幹線の沿線都市である盛岡駅（約39分）へのアクセスが非常に良好です。一方で、秋田新幹線が通っている秋田駅であっても、盛岡駅以西は在来線の線路を利用する区間があることや走行距離の関係から、盛岡駅への移動より長い時間（約139分）を要します。また、新幹線の通っていない気仙沼駅（約129分）との比較においても、新幹線の有無や路線の性質が所要時間に決定的な差をもたらしていることが読み取れます。
問5	答え 4 地熱発電	発電の源となる蒸気や熱水は火山活動に由来するため、全国一様に分布しているわけではなく、火山帯が位置する九州や東北に大きく偏っているのが特徴です。二酸化炭素の排出を抑える再生可能エネルギーとして、これらの地域で重要な役割を担っています。
問6	答え 1 りんご	設問にある東北地方の北端の県とは青森県のことです。青森県は冷涼な気候を生かしたりんごの栽培が非常に盛んで、日本国内の生産量の約半分以上を占めています。みかんは和歌山県や愛媛県などの温暖な地域、ぶどうは山梨県、おうとう（さくらんぼ）は山形県が主な産地です。
問7	答え 3 宮城県仙台市	宮城県の出庁所在地である仙台市は、人口が100万人を超える政令指定都市です。東北地方の地理的中心に近い福島県と岩手県の間に位置しており、交通網の拠点としても重要な役割を担っています。他の中核的な都市と混同されやすいですが、東北地方に属するのは宮城県の仙台市です。
問8	答え 4 社会を支える労働力となる生産年齢人口が減少し、社会保障などの負担が相対的に大きくなること	秋田県は日本国内でも特に高齢化が進行しており、65歳以上の割合（高齢化率）が非常に高い一方で、経済活動の中心となる15歳から64歳の「生産年齢人口」が減少しています。このような少子高齢化が進行した社会では、高齢者を支える現役世代の負担が増し、社会保障制度の維持や地域産業の労働力不足が大きな課題となります。
問9	答え 3 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。	土地利用の状況を示す指標として「総面積に対する耕地面積の割合」があります。宮城県は仙台平野という米づくりに適した平野部を持つため、この割合が約17.2%となっており、面積の大きい青森県（約15.5%）よりも高い比率で土地が耕作に利用されています。岩手県や秋田・山形の米の生産割合については、統計上そこまで極端な集中（7割超や2県で過半数など）は見られません。
問10	答え 1 日本海東北自動車道や東北中央自動車道、三陸沿岸道路などの整備が進み、日本海側と太平洋側の各都市を多角的に結ぶネットワークが構築された。	1990年代の東北地方は、中央を南北に走る東北自動車道が主軸でしたが、その後、日本海側を通る日本海東北自動車道や、内陸を南北に走る東北中央自動車道、太平洋沿岸を貫く三陸沿岸道路などの整備が着実に進みました。これにより、南北の二重化や東西を結ぶ横断路線の増加が実現し、地域内の移動の利便性が飛躍的に向上しました。
問11	答え 3 雪が多く冬の間は農作業ができないため、屋内でできる副業として行われたから	東北地方などの日本海側は、冬に季節風の影響で雪が多く降る豪雪地帯が多く見られます。そのため、冬の期間は屋外での農作業ができない状態が続きます。農家の人々は貴重な現金収入を得るために、農閑期となる冬場に屋内で地元の資源を使った漆器や木工品などを作るようになり、これらが伝統的工芸品として各地に定着しました。
問12	答え 1 冬の降水量は季節風の影響を受ける秋田市の方が多く、夏の平均気温はやませの影響を受ける宮古市の方が低い。	秋田市は冬に北西の季節風の影響を受けて降水量（降雪量）が多くなります。一方、宮古市は夏に冷たく湿った風（やませ）が吹き込むため、奥羽山脈の西側にある秋田市に比べて夏の平均気温が低くなる傾向があります。